



Title	衛生工学でのコンピュータ利用に想う
Author(s)	松浦, 茂
Description	第2回衛生工学シンポジウム（平成6年11月10日（木）-11日（金） 北海道大学学術交流会館） . 6 計画、展望 . 6-3
Citation	衛生工学シンポジウム論文集, 2, 237-237
Issue Date	1994-11-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/7619
Type	departmental bulletin paper
File Information	2-6-3_p237-237.pdf



衛生工学でのコンピュータ利用に想う

松浦 茂 (居住環境システム研究室)

1. まえおき

衛生工学シンポジウムに何を期待するかは参加する人によってそれぞれ異なっているのであろう。昨年開催の第一回シンポジウム論文集を紐といてみると、その名の示すとおり学会発表などに基づいた研究が殆どである。広い分野に分散している卒業生のあり方をみると同期の友達の活躍のあり方を知ることは楽しいことではあるが、学会発表と余り変わらない短い討論の時間を持ちえないきれいごとの発表ではPR効果しかなく、これからの研究や技術活動の糧として得るところが少ないのではなかろうか。したがってシンポジウム本来の意図するところに立ち返って今の研究成果型の発表をポスター発表と論文集(既発表の学会論文でも可)への集録にとどめ、研究やエンジニアリングの過程での疑問点、問題点、考え方、あり方、などなど実務現場から大学への要望や提案に力点をおいた討論が行える形がより望ましいのではないかと思うものである。このような立場から衛生工学でのコンピュータ利用教育に関する要望について考えてみることにする。

2. 日本はパソコン利用の後進国

パソコンの進化の著しい今日、そのコンピュータ利用技術において日本は先進国の中で非常に大きな遅れをとっていると言われている。事務処理面で見ると定型的事務処理や文書作成における漢字変換技術を思い浮かべて大きな遅れはないと思われる人もいるであろう。しかしマネジメントにおいてネットワークを通じ情報を集め処理加工を行い総合的観点から検討し意志決定を行い、明快な形でプレゼンテーションまでにパソコンを用いて効率的に一人で処理出来ることが、米国の管理職に求められる資質でありリストラへて定着しつつあると言われている。このようなパソコン利用が可能な管理者が日本でどの位いるのであろうか。

この遅れは利用目的に合致したコンピュータシステムと適用ソフトを整備し操作技術を習得することで追いつけるのであろうか。操作環境を整えることは、現在のパソコンの高性能高機能化と低価格化を考えるなら処理業務の効率化が得られるなら問題となる金額ではないであろう。また適用ソフトも既成の優れたものを連結活用ですむのであればパソコン用は手の届く範囲である。一方操作技術の習得に関しても最近の優れたGUIに基づく共通な直感的操作が可能なマンマシンインタフェースが整備されつつある状況ではそれがネックになるとは思われない。こう考えていくと問題として取り上げねばならないほどことでもなさそうに思えるが、はたしてそうであろうか。

その利用に当たって、どのようなで一たベースを蓄積し統合的見地から意志決定を一人で行うということは、これまでの知識ベースをもとにした失敗を避けるためのアナリシス指向の思考法では、統合決定過程でのビジョン構築に必要とされるシンセシス指向の考え方の乏しい現状をみると、ものより人の問題であり教育のあり方にもかかわる問題であり、そう簡単に短時間で解決できるのではなく、このことを認識し意識してその是正を考えない限りパーソナルレベルのコンピューティングであるだけにその差がますます開いていくのではないかと危惧するのは私だけであろうか。

3. 衛生工学でのコンピュータ利用

さて、本題の衛生工学でのコンピュータ利用について私の関心のあるインターパーソナル・コンピューティングについて、上記と同様にアナリシス指向とシンセシス指向をキーワードにしてコンピュータ利用の今後のあり方への要望を述べてみたいと思いますが、題名にあるようにこれは“想い”であり、文章の形で表し残すと言うことは何かと、...があるように思え筆も進まず、会場でのお話として語らせて戴きたいと思えます。